

災害時における在宅高齢者の安全確保に関する研究

～兵庫県内における事例報告～

減災復興政策研究科 減災復興政策専攻

◎M2 あんどう あ や こ べにや しょうへい
安藤 亜矢子、准教授 紅谷 昇平

キーワード

在宅高齢者，災害時，安全確保，連携，防災対策，



研究概要

近年、自然災害が多く発生し、高齢者や障がい者の被害が増えている。自然災害時、身体能力や認知機能に衰えがある高齢者の安全を確保するためには、介護や地域防災の関係者による支援が不可欠である。様々な対策がすすめられているが、在宅高齢者への対策は進んでいない現状がある。それには、高齢者の防災対策において、担当する自治体の部局が危機管理部局と福祉部局に分かれていること、また関係する組織・団体も多岐にわたることが課題として想定される。介護サービス事業所にBCP策定の義務付け、事業所間連携が重要とされているが、具体的な取り組みや連携については十分な検討がされていない。兵庫県内市町を事例として、基礎自治体における在宅高齢者の防災対策、関連する施策の担当部局や実施・調整体制、施策推進における課題等について質問紙調査を行った結果、在宅高齢者への対策で部局間連携が必要であり、特に個別避難計画で連携が重要と評価されていること、連携では時間とマンパワーのゆとり、管理職同士のコミュニケーションが必要と考えられていること、などを明らかにした。また、小規模居宅介護支援事業所では、災害時に備えた事業所間連携に向けた取り組みを行う中で、情報共有、ソフトの統一等が課題になっていることが分かった。

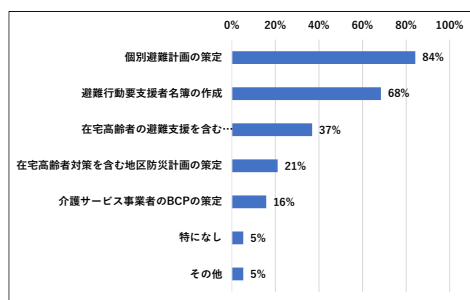


図1. 連携が重要な在宅高齢者施策

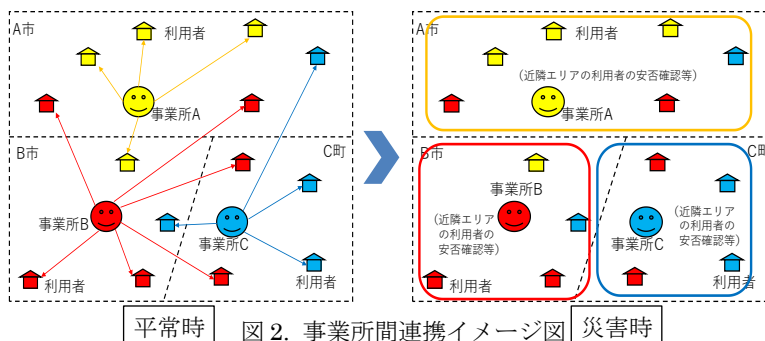


図2. 事業所間連携イメージ図

アピールポイント

著者は、西播磨地域で働く現役の介護支援専門員であり、地域で暮らす在宅高齢者の生活を支援している。仕事をしていく中で、在宅高齢者の防災対策が進んでいないことを実感し、社会人学生として大学での研究を実務に活かそうと努力している。同じような問題意識を抱えている同業者も多いことから、研究で得られた成果は、地域の介護支援専門員対象の研修会の講師を務めるなどして地域に還元している。現場での課題を明らかにし研究の成果を現場、地域に活かし、「社会の仕組みを変えていきたい」「研修や人材育成の新たな方法を開発したい」という思いで研究に取り組んでいる。

- 1) 在宅要介護高齢者等を支援する介護支援専門員等の防災意識・防災対策の実態：太子町での防災研修受講者への質問紙調査結果より,都市防災研究論文集第11巻(2024)P1-6(査読付き論文) 口頭発表
- 2) 災害時の業務継続に向けた小規模居宅介護支援事業所の連携事例の報告,日本災害情報学会 第29回学会大会 ポスター発表
- 3) 基礎自治体における高齢者防災施策の部局間連携の実態：兵庫県内市町への質問紙調査結果の報告,日本災害情報学会 第30回学会大会予稿集 P104-10 口頭発表